

平成 23 年度事業報告

平成 23 年度事業報告

1. 概況

数年来の世界的金融危機、景気の長期低迷が続く中、東日本大震災という未曾有の災害は、多くの人命や生活基盤を奪い社会経済にも大きなダメージを与えました。その復興、復旧も未だ足踏み状態で順調な回復基調にあるとは言いがたい状況下、円高傾向や欧州の信用不安、また、タイの洪水、国内での集中豪雨、豪雪など国内外とも大規模な自然災害が発生し、経済、自然環境ともに厳しい環境下にありました。

国政も不安定で、政局に対する不信感や社会保障への不安など混沌とした社会情勢の中、雇用を取り巻く環境は先行き不透明で一向に経済不況を脱出できない状況下にあります。

さて、シルバー事業を取り巻く環境も景気の停滞による影響や行政改革による補助金の削減などを受け一段と厳しい情勢にありました。このような状況は、地方の民間企業にも打撃を与え、継続的な発注は減少しましたが、発注者の期待に応えるべく会員各位の熱意と精進により昨年度よりも実績は減少したものの3億2千万円台の契約高となりました。

事業実績は、受注件数3,891件(24件増)、契約金額は32,088万円(△138万円、0.4%減)となりました。

受注先別にみると公共からの受注が1.4%(136万円)増、民間企業からの受注が0.4%(△66万円)減、一般家庭からの受注が3.8%(△212万円)減、独自事業は65.5%(4万円)増の実績となりました。

職群別割合では、一般作業群が最も多く全体の40.5%を占めており、次に管理群が30%、技術群が12.1%、技能群が10.6%、サービス群が4.2%、折衝外交群が2.4%、事務整理群が0.2%となりました。

会員の状況は、経済不況の昨今退職後の生活基盤の確保を求める入会希望者も見られましたが、シルバーでの就業形態の相違により年度末の会員数は624人とどまり、就業実人員は600人、就業率は96.2%となりました。少子化による人口減少と本格的な高齢社会が現実となり、高齢者の労働力への期待が高まっている今、需給の調整には多くの課題があるところであります。

手芸クラブを中心とした会員の自主的活動や親睦会による奉仕活動、親睦旅行は会員相互の交流の場となり、またシルバーの普及啓発の一助となりました。

公益法人への移行によりさらに高い社会的信用度が求められ、地域に密着した存在感のあるシルバー人材センターとして存続するためには、一人ひとりの資質の向上と知恵と力の結集が不可欠となっています。